

機織り技術 感心しきり

岐阜女子短大生、羽島の工場見学

岐阜市立女子短期大でファッションを学ぶ学生が、毛織物産地で知られる羽島市の製織工場などを訪れ、機織りの現場を見学した。
(亀山大樹)



シヨンヘル織機で服地が織られる様子を見学する学生たち＝羽島市竹鼻町、伊東紡織

二重織りの工学学ぶ

同大と同市、県毛織工業組合(同市)は昨年3月、人材育成に関する協定を締結。組合が運営する服飾素材の資料館「テキスタイルマテリアルセンター」(同市竹鼻町蜂尻)を拠点に、昨年度から学生の研修を受け入れている。年6回の研修の始まりとなる今回、生活デザイン学科ファッション専修の2年生17人が参加した。

センターで同組合の岩田善之副理事長から春、来夏のファッションのトレンドを学んだ後、同町の伊東紡織を見学。経営者の伊東治雄さん(78)が言ながらのシヨンヘル織機を使い、表と裏で素材や柄が違ふ布地を織る二重織りの工程を実演した。

岩田副理事長は「太さが異なる糸でも一緒に織れるのがこの織機

の特徴。思ったデザインを形にできる職人たちがファッションを支えている」と説明。アパレル販売員を志望する柳沢未希さん(19)は「織機が動くところを見たことがなく新鮮だった。最大で6色を織り込めることに驚いた」と話した。